

## II. 教育の内容

## 1. 教育課程

本学教育の基本目標「生きる」を考え、「働く」を学ぶを目指し、ガイダンス、教育課程、資格取得用補助教育、進路指導、授業評価、国際交流、地域社会活動、ファカルティ・ディベロプメント(FD)、学生募集、教職員人事、施設整備、組織改革など、教育に関連するすべてにおいて、この基本理念を推進している。また、「語学力」「ICT力」「マネジメント力」「コミュニケーション力」の4つを土台とし、プロジェクト学習をカリキュラムの中核として2年間で真のチカラを養う教育を展開している。

本学の教育課程は、総合教育科目等を中心とする両学科共通科目、各学科の専門科目、補助科目によって構成されている。

### (1) 両学科共通科目

高等教育機関の存在意義は、専門科目の学修のみにあるのではなく、社会人として、すぐれた教養と考える力をもった人材を輩出するところにある。従って、カリキュラムにおける両学科共通科目は、専門科目履修に先立つ基礎教育として重要な役割を果たすために、情報処理学科と国際文化学科に共通の内容もつ基礎科目群として開講されている。ここでは、各科目の独自性を維持しつつ、高等教育機関の特色である、広い視野を備えた学生の育成を図るという教育理念のもとに、各科目が構成されている。特に、短大として、教養教育を、専門教育等のすべての教育の基盤として強化するという方針から、従来の教養科目を配した総合教育科目を軸に、4つの土台を支える共通基礎科目、プロジェクト学習やキャリア形成の基礎となる初年次教育をより一層充実させた。

#### 1) 構成

- 現代文明論
- 総合教育
- 初年次教育
- スポーツ
- 共通基礎
- 外国語
- 海外留学

### 2) 2012年度現代文明論 I・II 概要

東海大学は、学園全体において、その教育の中心軸に「現代文明論」を置いている。その目的は、学本学園建学の理念について理解を深めるとともに、文明の過去・現在・未来を巡りながら、広く自らの思想、ものの見方、考え方を涵養することにある。

この学園全体の教育方針を踏まえ、本学における2012年度現代文明論の年間目標は、「学生が現代文明の今を認識するとともに、現代文明とその諸問題について、自らの問題として考え、解決しようとする意識を養うこと」とした。その目標達成のため、まず、東海大学の建学の精神とその教育理念について学ぶ講義を中核として、現代文明の諸様相を幅広く学ぶ講義群を配した。さらに、これらを5つの枠組み(講義区分):「建学の精神をさぐる」「文明の基盤」「現代文明の諸問題」「建学の精神を考える」「専門分野から語る文明」に整理して以下に示すような年間授業計画を編成した。大きな特徴は、上記の講義群に加えて配された講義区分毎のディスカッション授業である(現代文明論委員が実施を担当)。これは、「学生が自らの思想を培う力」を育む、ということを狙いとした活動であり、「聞く」・「書く」・「編む」・「発言する」力を段階的に高められるような授業展開を図るものである。また、全ての講義について「現代文明論eラーニング教材」として収録・編集し、必要に応じて履修者に閲覧させている。この教材は、実講義を録音し、講師の提示するパワーポイント等の資料と連動させたもので、実際の授業を受けているイメージで視聴することができる。この教材はやむ終えない事情で欠席が重なった者、文章作成能力に欠けているためレポート作成が著しく劣る者などに、学期末の補講として個別に視聴を指導しており、一定の効果を上げている。

なお、建学の精神に対する解釈の見直しと定期的な点検のために、理事長・総長をセンター長とし、常任の研究員を擁する現代文明論研究センターを設置している。また法人学務局が主催する現代文明論教育機関連絡調整会議が、各大学・短期大学、及び付属高等学校選出の委員によって年2回開催され、

授業編成を始めとする現代文明論の運営の統一を図っている。

### 2012年度「現代文明論Ⅰ」授業編成

回数	期日	講義区分	題目	講師
1	4/6	ガイダンス		現代文明論委員
2	4/12	思想を培う技術	話されたことばの記録	現代文明論委員
3	4/19	建学の精神をさぐる	東海大学建学の思想と源流	西野 仁
4	4/26		デンマークの歴史と現在に学ぶ	難波 克彰
5	5/10		現在に引き継がれる望星学塾の思想	橋本 敏明
6	5/17	思想を培う技術	ディスカッション	現代文明論委員
7	5/24	文明の基盤	現代文明を導いた哲学	真下 仁
8	5/31		文明の歴史と人文科学	神山 高行
9	6/7		科学はいかに現代文明の発展に貢献したか	宮川 幹平
10	6/14	思想を培う技術	ディスカッション	現代文明論委員
11	6/21	現代文明の諸問題	現代インドの光と影	赤井 ひさ子
12	6/28		FUKUSHIMA	伊津 信之介
13	7/5	思想を培う技術	ディスカッション	現代文明論委員
14	7/12		総括討論	現代文明論委員
15	7/19	授業総括と授業評価アンケート		現代文明論委員

### 2012年度「現代文明論Ⅱ」授業編成

回数	期日	講義区分	題目	講師
1	9/27	ガイダンス		現代文明論委員
2	10/4	建学の精神を考える	東海大学の基本理念と未来	蟹江 秀明
3	10/11		幅広く奥深い現代文明論	中村 武徳
4	10/18	思想を培う技術	ディスカッション	現代文明論委員
5	10/25	専門分野から語る 文明	スポーツ・レジャー	西野 仁
6	11/8		観光・ツーリズム	宮内 順
7	11/15	思想を培う技術	ディスカッション	現代文明論委員
8	11/22	専門分野から語る 文明	ICTとプログラム	八尋 剛規
9	11/29		ICTの発達と情報産業	矢原 充敏
10	12/6	思想を培う技術	ディスカッション	現代文明論委員
11	12/13	専門分野から語る 文明	コミュニケーションと文化(1)	林 鍾大
12	12/20		コミュニケーションと文化(2)	チョウ アンナ
13	1/10	思想を培う技術	ディスカッション	現代文明論委員
14	1/17		【総合討論】われわれの役割とは何か	現代文明論委員
15	1/24	授業総括と授業評価アンケート		現代文明論委員

### 3) カリキュラム

#### 両学科共通科目 (2012年度生)

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	e-ラーニング	備考
					1	2	3	4				
現代文明論	現代文明論 I	講義	○	2	2				専任	81		4単位必修
	現代文明論 II	講義	○	2		2			専任	78		
総合教育	観光とレジャー	講義	●	2	2	2			専任	85		選択必修 4単位以上
	健康とスポーツ	講義	●	2	2	2			専任	129		
	言葉と文化	講義	●	2	2	2			専任	90		
	企業と社会	講義	●	2	2	2			専任	83		
	情報とメディア	講義	●	2	2	2			専任	97		
初年次教育	プロジェクト基礎	講義	○	2	2				専任	82		5単位必修
	フレッシュマンゼミナール	演習	○	1	2				専任	77		
	キャリアプランニング	講義	○	2		2			専任	73		
スポーツ	スポーツ理論及び実習A	実習	×	1	2				専任	33		
	スポーツ理論及び実習B	実習	×	1		2			専任	31		
共通基礎	3カ国語初級	講義	○	2	2				専任	89		8単位必修
	情報リテラシーA	実習	○	1	2				専任	86		
	情報リテラシーB	実習	○	1		2			専任	74		
	マネジメント基礎	講義	○	2		2			専任	75		
	コミュニケーション基礎	講義	○	2		2			専任	84		
外国語	英語I	講義	●	1	2				専任	70		選択必修 2単位以上
	英語II	講義	●	1		2			専任	58		
	英語III	講義	●	1			2		専任			
	英語IV	講義	●	1				2	専任			
	韓国語I	講義	●	1	2				専任	59		
	韓国語II	講義	●	1		2			専任	29		
	韓国語III	講義	●	1			2		専任			
	韓国語IV	講義	●	1				2	専任			
	中国語I	講義	●	1	2				専任	53		
	中国語II	講義	●	1		2			専任	41		
	中国語III	講義	●	1			2		専任			
	中国語IV	講義	●	1				2	専任			
海外留学	ハワイ短期留学	講義	×	2	集				専任	14		
	韓国短期留学A	講義	×	2	集				専任	26		
	韓国短期留学B	講義	×	2		集			専任	11		
	中国短期留学	講義	×	2			集		専任	7		
	海外短期留学	講義	×	4	東海大学海外派遣留学制度 その他の留学を含む				専任	0		
	海外中期留学	講義	×	6					専任	0		
	海外長期留学	講義	×	8					専任	0		
	海外研修(航海)	講義	×	4		集			専任	2		

両学科共通科目（2011年度生）

科目の種類別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位の。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
現代文明	現代文明論I	講義	○	2	2				専任	88		4単位必修
	現代文明論II	講義	○	2		2			専任	87		
総合教育	現代社会と思想	講義	●	2	2	2			専任	56		選択必修 4単位以上
	文学と歴史	講義	●	2			2	2	専任	50		
	青年期の心理	講義	●	2	2	2			非常勤	72		
	経済と国際社会	講義	●	2	2	2			非常勤	97		
	環境と地球	講義	●	2			2	2	専任	60		
	健康とスポーツ	講義	●	2			2	2	専任	130		
外国語	英語I	講義	●	1	2				専任	78		選択必修 2単位以上
	英語II	講義	●	1		2			専任	64		
	英語III	講義	●	1			2		専任	32		
	英語IV	講義	●	1				2	専任	25		
	フランス語I	講義	●	1	2				専任	12		
	フランス語II	講義	●	1		2			専任	4		
	韓国語I	講義	●	1	2				専任	52		
	韓国語II	講義	●	1		2			専任	29		
	中国語I	講義	●	1	2				専任	46		
中国語II	講義	●	1		2			専任	41			
キャリア教育	情報リテラシーI	実習	○	1	2				専任	96	*	5単位必修
	情報リテラシーII	実習	×	1		2			専任	1	*	
	ビジネス基礎	講義	×	2	2				専任	44		
	進路対策I	講義	×	2	2				専任	86		
	進路対策II	講義	×	2		2			専任	80		
	進路対策III	講義	×	2			2		専任	80		
	進路対策IV	講義	×	2				2	専任	55		
	企業実習	実習	×	2		集			専任	10		
	フレッシュマンゼミナールI	演習	○	1	2				専任	91		
	フレッシュマンゼミナールII	演習	○	1		2			専任	86		
	卒研ゼミナールI	演習	○	1			2		専任	83		
卒研ゼミナールII	演習	○	1				2	専任	82			
スポーツ	スポーツ理論及び実習I	実習	×	1	2	2			専任	36		
	スポーツ理論及び実習II	実習	×	1	2	2			専任	14		
	スポーツ理論及び実習III	実習	×	1	2	2			専任	74		
	スポーツ理論及び実習IV	実習	×	1	2	2			専任	16		
本生留学 語日学	日本語コミュニケーションI	講義	×	1	2				非常勤	9		
	日本語コミュニケーションII	講義	×	2		4			非常勤	3		
海外留学	海外短期留学	講義	×	4	東海大学派遣 留学制度				専任	0		
	海外中期留学	講義	×	6	その他の留学				専任	0		
	海外長期留学	講義	×	8	を含む				専任	0		
	海外研修(航海)	講義	×	4	集				専任	0		

4) 自己点検・評価

現代社会に即した人材育成を考えたとき、各科目で養った知識とスキルを実践活動による教育を通じて統合化・全体化し、経験から得た統合されたチカラを養っていく新たな教育システムを構築して行くことが重要である。そのため、2012年度よりカリキュラムを抜本的に見直し、「語学力」「ICT力」「マネジメント力」「コミュニケーション力」の4つを土台として、プロジェクト学習を通じて2年間で真のチカラを養う教育を実現する構成とした。第1セメスターから「プロジェクト基礎」を配置し、学生に対してその意識付けを行うと同時に、「3カ国語初級」や4つの土台を支える科目など特色あるカリ

キュラムを通して、実社会が求める総合的なチカラを有した学生の育成をスタートさせた。2013年度にカリキュラムの完成年度を迎えるため、現段階でのはっきりとした評価は出せないが、カリキュラムの中核であるプロジェクト学習によって培われたチカラは点数化できるものではないため、これをどのように評価していくかを検討しておく必要がある。

## (2) 情報処理学科

### 1) 教育方針・構成

21世紀のICT(Information and Communication Technology / 情報通信技術)社会では、予想をはるかに越えるスピードで社会の情報化が進んでおり、あらゆる分野のデジタル化・モバイル化・ネットワーク化が進展していく中で、新しい事業分野が創出され、産業・経済・社会を大きく変革させている。そのため、従来からの情報処理産業のみならず、事務・営業・財務・医療など、広範な領域においてICTは不可欠なものとなっている。

情報処理学科では、モバイル情報機器、ソーシャルネットワーク、クラウドサービスなど新しい情報の流れを幅広く活用するスキルを身につけ、それらを様々なビジネス現場でより有効に応用し、即戦力として活躍できるだけのICT活用力と応用力を育むことを教育の目標としている。また、ビジネスの実務者として柔軟に対応できるだけでなく、近未来コンピューティングを志向できる総合的なデジタル教養を有する人材の育成を図っている。

これを実現するために、情報処理学科では、デジタルコンテンツを表現あるいは作成する分野、エンドユーザとしてコンピュータを業務推進のために活用する側の分野を中心にカリキュラムを構築し、教育を展開している。

#### メディアデザインコース

情報処理分野におけるマルチメディアの進展により、現在の情報処理業界においては、一つの能力に長けた人材だけでなく、Web制作、映像、音楽、プログラム、情報発信などの知識と技術をバランスよく兼ね備えた人材が求められている。そこで、「Webデザイン」「CG」「プログラミング」「システムマネジメント」等の科目内容を中心に構成し、「プロジェクト研究」で実践教育を通じて個々の科目で修得した知識とスキルを総合的に活用・応用するチカラの育成を行っている。

卒業後の活躍可能分野は、Webコンテンツ制作やその関連業務、CG関連業務や通信・情報サービス分野、システムエンジニアなど企業等での情報化推進部門やネットワーク関連業務などである。

#### オフィスマネジメントコース

オフィス業務を中心として、広報メディア、接客・販売、医療事務などビジネスの現場において、ICTを活用して各種業務をより円滑かつ効率的に運用するための必要な基礎知識と技術は、業務を遂行する上で極めて重要な要素である。そこで、ビジネス基礎や流通に関する知識やデータ分析、データ活用手法などを中心に学ばせ、ICT化が進むビジネス社会の中で即戦力として活躍できる人材育成を目指している。また、「プロジェクト研究」で実践教育を通じて個々の科目で修得した知識とスキルを総合的に活用・応用するチカラの育成を行っている。

卒業後の活躍可能分野は、銀行・証券会社を含む一般事務、医療事務、広告業界や印刷関連業務、各種接客販売業務などが期待できる。

#### <重点資格>

情報処理技術者試験、ITパスポート試験、日商PC検定(文書作成)、日商PC検定(データ活用)、日商簿記検定、秘書検定、CG検定、フォトマスター検定、保険請求事務技能検定

## 2) カリキュラム

### a. 開講科目（学科専門科目）一覧

学科専門科目（2012年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	e-ラーニング	備考
					1	2	3	4				
情報共通	情報基礎	講義	×	2	2				専任	41		
	I T 総合演習I	演習	×	2	2				専任	29		
	I T 総合演習II	演習	×	2		2			専任	20		
	メディア基礎演習A	演習	×	2		2			専任	27		
	メディア基礎演習B	演習	×	2		2			専任	16	*	
	メディア基礎演習C	演習	×	2		2			専任	21		
	広報メディア	講義	×	2			2		専任			
メディアデザイン	I T システム論A	講義	×	2		2			専任	11	*	
	I T システム論B	講義	×	2			2		専任			
	I T システム論C	講義	×	2			2		専任			
	メディアデザイン実習AI	実習	×	2			4		専任			
	メディアデザイン実習AII	実習	×	2				4	専任			
	メディアデザイン実習BI	実習	×	2				4	専任		*	
	メディアデザイン実習BII	実習	×	2				4	専任		*	
	デジタル広報	講義	×	2			2		専任			
オフィスマネジメント	オフィスデータ活用実習AI	実習	×	1		2			専任	19		
	オフィスデータ活用実習AII	実習	×	1			2		専任			
	オフィスデータ活用実習BI	実習	×	1			2		専任			
	オフィスデータ活用実習BII	実習	×	1				2	専任			
	先端ビジネス論A	講義	×	2		2			専任	21	*	
	先端ビジネス論B	講義	×	2			2		専任		*	
	先端ビジネス論C	講義	×	2				2	専任			
	ビジネス演習A	演習	×	2			2		専任			
	ビジネス演習B	演習	×	2				2	専任			
プロジェクト研究	プロジェクト研究I	演習	○	1		2			専任	20		3単位必修
	プロジェクト研究II	演習	○	1			2		専任			
	プロジェクト研究III	演習	○	1				2	専任			

学科専門科目（2011年度生）

科目の種類	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
情報共通	情報基礎	講義	○	2	2				専任	43		8単位必修
	ビットの時代論	講義	○	2		2			専任	37		
	プロジェクト実践I	講義	○	2			2		専任	38		
	プロジェクト実践II	講義	○	2				2	専任	35		
	情報総合演習I	演習	×	2	2				専任	40		
	情報総合演習II	演習	×	2		2			専任	40		
	メディアリテラシー	講義	×	2	2				専任	18		
	インターネット基礎	講義	×	2	2				専任	26		
	プログラミング基礎	講義	×	2	2				専任	28	*	
ディジタルラ	ホームネットワーク	講義	×	2			2		専任	30		
	デジタルメディアI	講義	×	2	2				専任	17		
	デジタルメディアII	講義	×	2		2			専任	29		
	インターネットコミュニケーション	講義	×	2		2			非常勤	47		
	モバイルコミュニケーション	講義	×	2	2				非常勤	47		
メディアデザイン	コンテンツビジネス	講義	×	2	2				専任	16	*	
	システムマネジメント	講義	×	2		2			専任	10	*	
	アルゴリズム	講義	×	2		2			専任	8	*	
	プログラミングI	実習	×	1			2		専任	11	*	
	プログラミングII	実習	×	1				2	専任	3	*	
	コンピュータネットワーク	講義	×	2		2			専任	16		
	コンピュータシステム	講義	×	2	2				専任	15	*	
	WebデザインI	実習	×	1		2			専任	14		
	WebデザインII	実習	×	1			2		非常勤	10		
	データベース	講義	×	2		2			専任	17		
	2次元CG	実習	×	1	2				専任	12		
	3次元CG	実習	×	1		2			専任	14		
	デジタル編集	講義	×	2			2		非常勤	33		
オフィスワーク	ビジネスデータ活用	実習	×	1				2	専任	19		
	経営基礎論	講義	×	2				2	専任	13		
	マーケティング	講義	×	2			2		専任	42		
	簿記原理I	講義	×	2	2				専任	21		
	簿記原理II	講義	×	2		2			専任	15		
	簿記演習I	演習	×	2	2				専任	20		
	簿記演習II	演習	×	2		2			専任	15		
	秘書実務I	実習	×	1	2				専任	18		
	秘書実務II	実習	×	1		2			専任	3		
	医事コンピュータ	講義	×	2			2		非常勤	9		
	医療事務I	講義	×	2	2				非常勤	29		
	医療事務II	講義	×	4		4			非常勤	19		

b. 履修可能科目および卒業要件について

情報処理学科に所属する学生は、情報処理学科の学科専門科目のほか、項目（1）で挙げた両学科共通科目を履修できる。また、国際文化学科の学科専門科目についても、原則として履修可能である。このほか、1・2セメスターの学生が、3・4セメスターの科目を受講することは原則として認めない。

卒業要件としては、両学科共通科目および学科専門科目に設定された必修科目（必選別に○マークのある科目）を全て合格し、かつ、選択必修科目（必選別に●マークのある科目）の条件を満たし、合計



で6 2 単位以上の単位を取得することである。ただし、国際文化学科の学科専門科目については、卒業要件として最大で20 単位までしか認めない。

### 3) 自己点検・評価

モバイル情報機器、ソーシャルネットワーク、クラウドサービスなど極めて速いICTの流れに対応し、多様化する学生のニーズにこたえ、より効果のある教育を行うために科目の見直しを図りながら教育改善に努めてきた。その中で、2011 年度に「プロジェクト実践」を新たに組み込み、2012 年度より「プロジェクト研究」としてカリキュラム中核として位置づけた。現在のICTを中心としたビジネス業務においては、一つの能力に長けた人材ではなく、様々な情報機器やコンテンツを自由に扱いこなし、それらを組合せて新しい発想を創出するチカラが極めて重要である。このことから、「プロジェクト研究」は、日常業務においてICTを総合的に活用するチカラを養成するために、個々の科目で修得した知識とスキルを実践活動による教育を通じてつなぎあわせるための重要な役割を担っている。

また、資格支援についても補助科目群を設けて随意科目扱いとすることで、各資格に柔軟に体尾言うことができる体制とし、情報系国家資格である基本情報技術者試験についても、午前試験免除の申請を継続している。

2011 年度に「プロジェクト実践」を組み込み、最初のプロジェクト発表会を実施したが、デジタルコンテンツや機器を総合的に扱い、新たなコンテンツを創出する能力を養う上では一定の成果を得られていると考えられる。しかし、2年間という短大教育の期間において、2012 年度より導入した「プロジェクト研究」をより充実させていくためには、各科目との連動強化が不可欠である。また、更なる総合的なチカラの養成に向け、各プロジェクトとのコラボレーションなど、分野を超えた協力体制の構築を進めていく必要がある。

## (3) 国際文化学科

### 1) 教育方針・構成（カリキュラムポリシー）

国際文化学科では、グローバル化が進展する国際社会で活躍できる人材の育成という従来からの教育目標を堅持しながら、2012 年度はカリキュラムの刷新に伴い、世界最大の国際言語である英語を核とし、東アジアでの需要が高まる中国語と韓国語の学修に特化した「英語・韓国語・中国語コース」、九州新幹線の開通や東アジアの玄関口として国内外の観光産業の盛んな地である福岡において依然として人気の高いレジャー・観光関連産業に従事する人材を育成する「レジャー&ツーリズムコース」、さらに健康・運動への関心の高まりからスポーツを支える人材を育成する「スポーツマネジメントコース」の3つのコースを設置している。

これらの3つのコースを配して、国際文化学科では、カリキュラムの刷新にあたり、全体のコンセプトとして次の4点に重点を置いて充実を図った。まず第1に、語学教育（英語・韓国語・中国語）の充実。ここでは特に、週2回開講による会話中心の実践型の語学教育や習熟度別英語クラスの開講、語学資格の授業の充実などを推進した。第2に、レジャー&ツーリズム及びスポーツマネジメントコースにおける体験型授業の導入。ここでは例えば、プロジェクト研究における屋外授業や旅行関連の資格取得のための集中講義、スポーツ施設への訪問授業などが挙げられる。第3に、教養教育の充実。ここでは特に語学教育との連動を想定して、専門教育における海外及び日本の文化・歴史に関する科目の充実を図った。第4に、留学制度の充実。英語、韓国語、中国語にそれぞれ2~3週間の短期語学研修を設け、さらに1 Semester（4 カ月）の交換留学（韓国）の制度を設けた。また、卒業後に留学を希望する学生に対しては、それぞれのネイティブ教員による個別の留学指導を行っている。

なお、国際文化学科と情報処理科の共通のカリキュラムとして、3 カ国語初級、情報リテラシー、マネジメント基礎、コミュニケーション基礎、フレッシュマンゼミナールの5つの科目を必修とし、語学、ICT、社会人基礎力の醸成、初年次教育の推進に努めている。

#### 英語・韓国語・中国語コース

公共施設の表示の他、公共交通機関のアナウンスなど、日本語だけでなく、英語を初め、昨今、韓国語や中国語で行われてこともはや珍しいことではない。アジアの時代を迎え、国際言語である英語は

もとより、経済や文化交流を通じて韓国語と中国語への関心と需要が急速に高まっている。このような背景を考慮しながら、本コースでは英語・韓国語・中国語の修得を中心に科目を設置し、各国のネイティブ教員による指導のもと、実用的なコミュニケーション能力はもちろん、それぞれの国々の文化や歴史を学ぶことにより、単なるツールとしてだけではない語学力を身に付けさせることをコースの教育目標としている。また本コースでは、短期語学研修や留学制度、さらにはレジャー&ツーリズムコースの科目と組み合わせることで履修することにより、実社会での進路に対応した学修を行うことができる。

#### レジャー&ツーリズムコース

働くだけでなく、生活や人生を楽しむことが今日の社会では重要になっている。こうした認識を背景に、本コースでは、働くことと素敵に生きることのバランス (Work Life Balance) の視点でレジャーや観光を学修する。日本人初のレジャー学博士を取得した教員を初め、旅行会社で国内外の旅行商品の企画を担当したプロフェッショナルな教授陣のもと、レジャーと観光をセットで学びながら、レジャー・観光産業における企画力、マネジメント力、ホスピタリティ力、分析力を身に付けてもらうことをコースの教育目標に置いている。また本コースでは、インターンシップや資格関連科目と組み合わせることで履修することにより、より実践的な学修を行うことができる。なお、さらに深くレジャー学・観光学を学ぶことを希望する学生には、東海大学観光学部への編入する制度も設けてある。

#### スポーツマネジメントコース

スポーツは、健康や生きる喜びと深く関連する大切な文化であり、参加者も種目も大会も実に多種多様である。スポーツへの認識と関心が高まる中、特にスポーツの表舞台を支える人材の育成は急務となっている。本コースでは、スポーツ大会の企画や運営、施設や用具の管理、選手・チームの分析など、スポーツの世界に関する様々な知識と技術を学修し、大会や選手・チームのマネジメントや分析力、各種スポーツにおける救急処置や事故予防の技術、また運動生理学を基盤としたスポーツや健康を科学的に検証する能力など、スポーツに関する力を総合的に身に付けさせる学修を行っている。本コースでの学修後は、スポーツ施設やクラブへの就職やさらに学びを深めたい学生には東海大学体育学部（湘南校舎）、総合経営学部（熊本校舎）、国際文化学部（札幌校舎）への編入する制度もある。

## 2) カリキュラム

### a. 開講科目（学科専門科目）一覧

#### 学科専門科目（2012年度生）

科目の種別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	e-ラーニング*	備考
					1	2	3	4				
国際共通	国際文化論	講義	×	2		2			専任	29		
	異文化コミュニケーション論	講義	×	2			2		専任			
	地域文化圏研究(アメリカ)	講義	×	2			2		専任			
	地域文化圏研究(ヨーロッパ)	講義	×	2				2	専任			
	地域文化圏研究(アジアA)	講義	×	2			2		専任			
	地域文化圏研究(アジアB)	講義	×	2			2		専任			
	日本歴史地理研究	講義	×	2	2				専任	24		
	世界歴史地理研究	講義	×	2		2			専任	19		
レジャー&ツーリズム	レジャー&ツーリズム概論I	講義	×	2	2				非常勤※	46		
	レジャー&ツーリズム概論II	講義	×	2		2			専任			
	レジャー&ツーリズム論A	講義	×	2		2			専任			
	レジャー&ツーリズム論B	講義	×	2		2			専任			
	レジャー&ツーリズム論C	講義	×	2			2		専任			
	レジャー&ツーリズム論D	講義	×	2			2		専任			
	レジャー&ツーリズム演習	演習	×	2			2		専任			
スポーツマネジメント	スポーツマネジメント概論	講義	×	2	2				専任	21		
	スポーツマネジメント論A	講義	×	2	2				専任	18		
	スポーツマネジメント論B	講義	×	2		2			専任			
	スポーツマネジメント実習A	実習	×	1	2				専任	27		
	スポーツマネジメント実習B	実習	×	1	2				専任	24		
	スポーツマネジメント実習C	実習	×	1		2			専任			
	スポーツマネジメント実習D	実習	×	1			2		専任			
	スポーツ・健康科学論	講義	×	2		2			専任			
	スポーツ・健康科学論実習	実習	×	1			2		専任			
英語・韓国語・中国語	英語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	35		
	英語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	25		
	英語コミュニケーションIII	講義	×	2			4		専任			
	英語コミュニケーションIV	講義	×	2			4		専任			
	韓国語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	38		
	韓国語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	21		
	韓国語コミュニケーションIII	講義	×	2			4		専任			
	韓国語コミュニケーションIV	講義	×	2			4		専任			
	中国語コミュニケーションI	講義	×	2	4				専任	42		
	中国語コミュニケーションII	講義	×	2		4			専任	26		
	中国語コミュニケーションIII	講義	×	2			4		専任			
	中国語コミュニケーションIV	講義	×	2			4		専任			
プロジェクト研究	プロジェクト研究I	演習	○	1		2			専任	54		3単位必修
	プロジェクト研究II	演習	○	1		2			専任			
	プロジェクト研究III	演習	○	1			2		専任			

学科専門科目 (2011年度生)

科目の種類	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	eラーニング	備考
					1	2	3	4				
国際文化共通	国際文化論	講義	●	2	2				専任	24		選択必修 4単位以上
	異文化交流論	講義	●	2			2	専任	14			
	英語文化圏地域研究	講義	●	2			2	専任	25			
	フランス語文化圏地域研究	講義	●	2			2	専任	18			
	韓国語文化圏地域研究	講義	●	2	2			専任	58			
	中国語文化圏地域研究	講義	●	2	2			専任	33			
観光・レジャー	観光学概論Ⅰ	講義	×	2	2				専任	38		
	観光学概論Ⅱ	講義	×	2	2				専任	36		
	観光メディア論	講義	×	2			2	非常勤※	36			
	観光マーケティング	講義	×	2	2			専任	28			
	エコツーリズム論	講義	×	2			2	非常勤	28			
	ホテルビジネス	講義	×	2	2			専任	46			
	エアラインビジネス	講義	×	2	2			専任	35			
	ツアーマネジメント	講義	×	2	2			専任	46			
	ツーリズム演習	演習	×	2	2			専任	30			
	旅行業法規	講義	×	2	2			専任	31			
	国内観光地理	講義	×	2	2			専任	36			
	海外観光地理	講義	×	2			2	専任	35			
	スポーツ・レジャーマネジメント	講義	×	2	2			専任	34			
	スポーツ・レジャー科学論	講義	×	2			2	専任	13			
	スポーツ・レジャー論	講義	×	2	2			専任	3			
	レジャー・レクリエーション実習Ⅰ	実習	×	1			2	専任	11			
	レジャー・レクリエーション実習Ⅱ	実習	×	1			2	専任	0			
	生涯スポーツ論	講義	×	2			2	専任	9			
	救急処置法	講義	×	2			集	非常勤※	4			
	英語・韓国語・中国語	英語コミュニケーションⅠ	講義	×	2	4			専任	36		
英語コミュニケーションⅡ		講義	×	2		4		専任	37			
英語コミュニケーションⅢ		講義	×	1			2	非常勤	21			
英語コミュニケーションⅣ		講義	×	1			2	専任	9			
検定英語Ⅰ		講義	×	1	2			非常勤	20			
検定英語Ⅱ		講義	×	1		2		非常勤	9			
検定英語Ⅲ		講義	×	1			2	専任	20			
検定英語Ⅳ		講義	×	1			2	専任	9			
リーディング・スキルⅠ		講義	×	1		2		専任	4			
リーディング・スキルⅡ		講義	×	1			2	非常勤	3			
韓国語コミュニケーションⅠ		講義	×	2	4			専任	25			
韓国語コミュニケーションⅡ		講義	×	2		4		専任	25			
韓国語コミュニケーションⅢ		講義	×	1			2	専任	21			
韓国語コミュニケーションⅣ		講義	×	1			2	専任	18			
検定韓国語Ⅰ		講義	×	1			2	専任	20			
検定韓国語Ⅱ		講義	×	1			2	専任	19			
中国語コミュニケーションⅠ		講義	×	2	4			専任	21			
中国語コミュニケーションⅡ		講義	×	2		4		専任	15			
中国語コミュニケーションⅢ		講義	×	1			2	専任	19			
中国語コミュニケーションⅣ		講義	×	1			2	専任	12			
検定中国語Ⅰ		講義	×	1			2	専任	17			
検定中国語Ⅱ		講義	×	1			2	専任	14			
ハワイ短期留学		講義	×	2	集			専任	9			
韓国短期留学		講義	×	2	集			専任	21			
中国短期留学		講義	×	2		集		専任	6			

## b. 履修可能科目および卒業要件について

国際文化学科に所属する学生は、国際文化学科の学科専門科目のほか、項目（1）で挙げた両学科共通科目を履修できる。また、情報処理科の学科専門科目についても、原則として履修でき、最大で20単位まで卒業要件として認められる。しかし、1・2セメスターの学生が、3・4セメスターの科目を受講することは原則として認めていない。

卒業要件は、両学科共通科目および学科専門科目に設定された必修科目（必選別に○マークのある科目）に全て合格し、かつ、選択必修科目（必選別に●マークのある科目）の条件を満たした上で、合計で62単位以上の単位を取得することである。

## 3) 自己点検・評価

大学全入時代を迎え、学力の低下や多様な学生の高等教育機関への入学が取りざたされ、また学生の学びたい分野やキャリアに対する志向の変化に対応すべく、本学としても数年おきにカリキュラムを改定し、より良い学びの提供にこれまで努めてきた。今年度は“「生きる」を考え、「働く」を本気で学ぶ”という本学の教育方針のもと、新たなカリキュラムをスタートすることとなった。本カリキュラムは2013年度に完成することになるが、2012年度の時点での自己点検と評価を以下にまとめる。

まず、語学（英語・韓国語・中国語）についてであるが、語学教育の場合、複数教員による少人数の習熟度別クラスによる授業運営が理想である。現在これを達成しているのは英語のみである。昨今、韓国語、中国語ともに人気が高く、受講者も多いことから、現在、所定のクラス人数を超えた場合は、別クラスの開講が義務付けられているが、次年度からは英語と同様に複数教員による授業運営が早急に望まれるところである。

次に、学科専門科目であるが、総合科目や共通基礎、外国語といった両学科共通科目の多くを1年次におき、基本的に教養科目を1年次開講、専門科目を1年次後半から2年次開講となっている。これは基礎的な科目をしっかり1年次に学修してから専門科目に進むというコンセプトでカリキュラムが組まれた結果であるが、早期から専門科目を学びたい学生にとっては、やや不満が生じる開講時期となった。特にレジャー&ツーリズムコースの専門科目は開講時期が2年次にほとんど集中しており、1年次から希望する学生が受けられないカリキュラムとなっている。また専門科目の多くの科目名をシステムティックに統一したことから、学修する科目内容が学生に分かりづらい点も指摘されている。2013年度のカリキュラム完成年度を待って、今一度、専門科目の開講時期については検討する必要がある。

最後に、補助科目（キャリア教育、語学資格、旅行資格、IT資格、キャリア資格）について検証したい。補助科目は2年次でも受講できる配慮から、そのほとんどが1年次に開講され、随意科目として開講されている。卒業単位にカウントされない随意科目のため、当然インセンティブの高い学生が受講してくる結果となったが、2年次では1度履修した学生は履修出来ないため、現在の方式では継続性のない開講方式になりかねない点が危惧されている。今後の是正の検討が必要である。

カリキュラムに関しては、学科及び教務委員会、大学評価委員会と連動して常時その問題点・改善点について検証と分析を継続させながら、次年度に向けてより良いカリキュラムを提供できるよう努力していきたい。

#### (4) 補助科目

##### 1) 教育方針・構成 (カリキュラムポリシー)

高等教育機関として、すぐれた教養と幅広い視野を育成する両学科共通科目、各学科の専門的な知識とスキルを修得する専門科目の充実は当然である。しかし、高等教育機関の中でも社会のニーズに即した実際の専門職業に重きを置く短期大学では、キャリア支援科目や資格支援科目も重要な位置づけとなる。ここでは、両学科共通科目あるいは学科専門科目との関連性を維持しつつ、キャリア支援や資格支援をより一層充実させる目的で、補助科目として設定し、単位についても随意科目として柔軟に対応できる体制にしている。

##### 2) カリキュラム

###### 補助科目 (2012年度生)

科目の種類別	授業科目名	授業形態	必選別	単位数	開講セメスター (開講はセメスター単位。数字は1週あたりの時間数。集中授業の場合は「集」と記載)				教員配置 (兼任非常勤には「※」マーク)	受講者数 (セメスター開講科目については累計。斜線は履修者数未確定)	e-ラーニング*	備考
					1	2	3	4				
キャリア教育	ディベート基礎	講義	※	2		2			専任	0		
	社会総合	講義	※	2	2				専任	0		
	国際・時事研究	講義	※	2		2			専任	10		
	数学基礎	講義	※	2	2				専任	1		
	英語基礎	講義	※	2		2			専任	2		
	地理歴史基礎	講義	※	2	2				専任	5		
	キャリア研究A	講義	※	2			2		専任			
	キャリア研究B	講義	※	2			2		専任			
	日本語コミュニケーションI	講義	※	1	2				専任	1		
	日本語コミュニケーションII	講義	※	1		2			非常勤	3		
企業実習	実習	※	2		集			専任	3			
語学資格	実用英語A	講義	※	1	2				専任	8		
	実用英語B	講義	※	1		2			専任	11		
	TOEIC・A	講義	※	1	2				専任	14		
	TOEIC・B	講義	※	1		2			専任	3		
	実用韓国語A	講義	※	1		2			専任	21		
	実用韓国語B	講義	※	1			2		専任			
	実用中国語A	講義	※	1		2			専任	7		
	実用中国語B	講義	※	1			2		専任			
旅行資格	旅行業務取扱管理者A	講義	※	2	2				専任	9		
	旅行業務取扱管理者B	講義	※	2	2				専任	11		
IT資格	PC文書作成A	講義	※	2	2				専任	18		
	PC文書作成B	講義	※	2		2			専任	11		
	PCデータ活用A	講義	※	2		2			専任	10		
	PCデータ活用B	講義	※	2			2		専任			
	情報処理技術者A	講義	※	2	2				専任	6		
	情報処理技術者B	講義	※	2	集				専任	3		
	情報処理技術者C	講義	※	2		2			専任	6		
キャリア資格	秘書実務A	講義	※	2	2	2			専任	4		
	秘書実務B	講義	※	2	2	2			専任	10		
	簿記A	講義	※	2	2				専任	13		
	簿記B	講義	※	2		2			専任	9		
	医療事務I	講義	※	2	2				非常勤	5		
	医療事務II	講義	※	4		4			非常勤	3		

##### 3) 自己点検・評価

2012年度は、本学において初めての試みであるが、就職支援科目や資格取得関連科目を「補助科目」に一括化し、卒業単位には含まれない「随意」科目として、他の科目群（「両学科共通科目」「学科専門科目」）とは差別化したカリキュラムを作成した。その目的は、二年後の卒業に向け、学生一人一人が自ら自覚的に目標を設定し、その達成のために必要とする科目を自らの責任のもとに選択することを通して、学生の主体性を育成し、自立を促そうという点にあった。しかし、確かに、語学を中心とする幾つかの科目では、モチベーションの高い学生が履修することで教育効果は上がったが、全体的に履修者の数は少なく、また中には卒業単位には含まれないということから、途中で簡単に投げ出す学生も見

受けられ、期待された効果は十分には得られなかった。

短期大学においては、二年間という短期間で就職等の出口に向けて準備をしなければならないことから、就業意識の涵養、職業観の育成、そして就職活動で少しでも優位に立つために資格取得は重要である。その点で、一括したプログラムの作成は、確かに学生を意識化させる点では有効であったと考える。しかし、補助科目の中の多くの科目が、卒業単位に含まれる科目との有機的な連携を強めることで、より効果を発揮させることができるという指摘もあり、今年度の結果を踏まえ、随意科目という設定を含めて検証をさらに進めたい。何よりも、学生にとってより効果的かつ有意義なカリキュラム構成を行うことが肝要である。

### (5) 学年暦

2012年	4月	3日(火)	入学式(13時)
		4日(水)	
		5日(木)	春学期オリエンテーション・ウィーク
		6日(金)	
		7日(土)	
	5月	9日(月)	春学期授業開始
		1日(火)	臨時休校日
	2日(水)		
	7月	30日(月)	春学期授業終了
		31日(火)	
	8月	1日(水)	春学期定期試験(追試験 8/4(土)、8/6(月))
		2日(木)	
		3日(金)	
	9月	7日(火)	夏期休暇(~9/19(水))、サマーセッション(~8/31(金))
		上旬~中旬	韓国短期留学A(予定)
		1日(土)	短期大学(部)スポーツ大会(8/31(金)出発、9/2(日)帰福)
		上旬~中旬	ハワイ短期留学(予定)
		20日(木)	9月学位授与式、秋学期入学式
	11月	21日(金)	秋学期ガイダンス
		24日(月)	秋学期授業開始
1日(木)		建学祭準備(11/1(木))	
2日(金)		建学祭(11/2(金)、11/3(土))	
12月	3日(土)	建学記念式典(11/3(土))	
	4日(日)	建学祭片付け(11/4(日))	
2013年	1月	21日(金)	冬期休暇前授業終了
		22日(土)	冬期休暇(~1/7(月))
		8日(火)	冬期休暇後授業再開
		22日(火)	金曜授業充当日
		23日(水)	月曜授業充当日
		28日(月)	秋学期授業終了
	2月	29日(火)	秋学期定期試験(追試験 2/2(土)、2/4(月))
		30日(水)	
		31日(木)	
	3月	1日(金)	
		5日(火)	ウィンターセッション(~3/1(金))
		上旬~下旬	韓国短期留学B(予定)
上旬~中旬		中国短期留学(予定)	
3月	8日(金)	卒業ガイダンス	
	20日(水・祝)	学位授与式・卒業記念パーティー	

(6) 時間割

2012年5月1日現在

2012年度授業時間割 情報処理学科 (B2生) 第1セメスター

注1) ( ) 内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択 ※:随意、数字は単位数を表しています。  
 注2) 担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
曜日	9:00~10:20	10:30~11:50	12:40~14:00	14:10~15:30	15:40~17:00	17:10~18:30
月	英語I (●1) 9483A 神山 2502	情報リテラシーA (○1) 1211A 矢原、徳永 第1, 2実習室	情報基礎 (×2) 0603A 矢原 ゼミ室2・3	数学基礎 (※2) 1246A 齋藤 1307  秘書実務B (※2)  赤井 1306	PC文書作成A (※2) 1260A 矢原 第1実習室  地理歴史基礎 (※2) 1248A 亀田 1307	
火	3カ国語初級 (○2) 1210A 林、ウエア、チョウ 2502	情報処理技術者A (※2) 1264A 宮川 第4実習室	スポーツ理論及び実習A (×1) 1208A 北濱、岡本 コモンホール 総合グラウンド	簿記A (※2) 1268A 佐竹 2501	旅行業務取扱管理者A (※2) 1259A 藤本 1307  TOEIC・A (※2) 1253A ウエア 第2実習室	
水	IT総合演習I (×2) 1217A 八尋、伊津 第1実習室	健康とスポーツ (●2) 1101A 北濱、岡本 2502  企業と社会 (●2) 1203A 佐竹 2501	フレッシュマンゼミナール (○1) 1206A 矢原 1206D 宮川・赤井 1206C 八尋・伊津  各研究室	秘書実務A (※2) 1266A 赤井 1306  実用英語A (※2) 1251A 神山 1304	医療事務I (※2) 1002A 古賀 1305	
木		韓国語I (●1) 0716A 林 1305	観光とレジャー (●2) 1201A 西野、藤本 1305  情報とメディア (●2) 1204A 伊津 2501	現代文明論I (○2) 941DA 宮川、伊津、真下、岡本 2502	旅行業務取扱管理者B (※2) 1294A 宮内 1305  日本語コミュニケーション1 (※1) 0122A 矢原、西野、神山、チョウ 1307	
金	中国語I (●1) 9953A チョウ 1305	プロジェクト基礎 (○2) 1205A 矢原、真下、林 ゼミ室2・3		言葉と文化 (●2) 1202A 真下 2501		

集中	情報処理技術者B (※2) 1265A 宮川
	ハワイ短期留学 (×2) ウエア
	韓国短期留学A (×2) 林
	海外短期留学 (×4) 東海大学派遣留学制度他

■履修登録番号および教室のない科目については、後日揭示等で指示します。  
 ■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。



2012年度授業時間割 国際文化学科 (B2生) 第1セメスター

注1) ( )内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択 ※:随意、数字は単位数を表しています。

注2) 担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

曜日	1時限目 9:00~10:20	2時限目 10:30~11:50	3時限目 12:40~14:00	4時限目 14:10~15:30	5時限目 15:40~17:00	6時限目 17:10~18:30
月	英語I (●1) 9483A 神山 2502	情報リテラシーA (○1) 1211A 矢原、徳永 第1, 2実習室	スポーツマネジメント実習A (×1) 1287A 北濱、他 コモンホール 総合グラウンド他	英語コミュニケーションI (×2) 0031A ウェア 1303 0031B 玉置 1302 〔週2コマ【火2】開講〕 数字基礎 (※2) 1246A 齋藤 1307 秘書実務B (※2) 1267A 赤井 1306	PC文書作成A (※2) 1260A 矢原 第1実習室 地理歴史基礎 (※2) 1248A 亀田 1307	
火	3カ国語初級 (○2) 1210A 林、ウェア、チョウ 2502	英語コミュニケーションI (×2) 0031A ウェア 1303 0031B 玉置 1302 〔週2コマ【月4】開講〕 情報処理技術者A (※2) 1264A 宮川 第4実習室	スポーツ理論及び実習A (×1) 1208A 北濱、岡本 コモンホール 総合グラウンド 日本歴史地理研究 (×2) 1275A 亀田 1305	中国語コミュニケーションI (×2) 9958A チョウ 1303 〔週2コマ【木1】開講〕 簿記A (※2) 1268A 佐竹 2501	旅行業務取扱管理者A (※2) 1259A 藤本 1307 TOEIC・A (※2) 1253A ウェア 第2実習室	
水	韓国語コミュニケーションI (×2) 0831A 林 1303 〔週2コマ【金5】開講〕	健康とスポーツ (●2) 1101A 北濱、岡本 2502 企業と社会 (●2) 1203A 佐竹 2501	フレッシュマンゼミナール (○1) 1206H 神山・ウェア 12060 北濱・岡本 1206I 林・亀田 1206F 真下・藤本 1206G 宮内・チョウ 各研究室	秘書実務A (※2) 1266A 赤井 1306 実用英語A (※2) 1251A 神山 1304	医療事務I (※2) 1002A 古賀 1305	
木	中国語コミュニケーションI (×2) 9958A チョウ 1303 〔週2コマ【火4】開講〕	韓国語I (●1) 0716A 林 1305	観光とレジャー (●2) 1201A 西野、藤本 1305 情報とメディア (●2) 1204A 伊津 2501	現代文明論I (○2) 941DA 宮川、伊津、真下、岡本 2502	旅行業務取扱管理者B (※2) 1294A 宮内 1305 日本語コミュニケーションI (※1) 0122A 矢原、西野、神山、チョウ 1307	
金	中国語I (●1) 9953A チョウ 1305	プロジェクト基礎 (○2) 1205A 矢原、真下、林 ゼミ室2・3		言葉と文化 (●2) 1202A 真下 2501	韓国語コミュニケーションI (×2) 0831A 林 1303 〔週2コマ【水1】開講〕	

集中	情報処理技術者B (※2)	1265A	宮川
	ハワイ短期留学 (×2)		ウェア
	韓国短期留学A (×2)		林
	海外短期留学 (×4)		東海大学派遣留学制度他

■履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

## 2012年度授業時間割 情報処理科 (B2生) 第2 Semester

注1) ( )内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択 ※:随意、数字は単位数を表しています。

注2) 担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 曜日	1時限目 9:00~10:20	2時限目 10:30~11:50	3時限目 12:40~14:00	4時限目 14:10~15:30	5時限目 15:40~17:00	6時限目 17:10~18:30
月	英語II (●1) 9486J 神山 1305	情報リテラシーB (○1) 1212J 矢原、徳永 第1, 2実習室	中国語II (●1) 9954J チョウ 1307	メディア基礎演習A (×2) 1219J 八尋 第1実習室	PC文書作成B (※2) 1261J 矢原 第1実習室	
					実用中国語A (※2) 1257J チョウ 1307	
火	メディア基礎演習C (×2) 1221J 伊津、齋藤 第2実習室	先端ビジネス論A (×2) 1235J 宮川 1307	マネジメント基礎 (○2) 1213J 西野、佐竹 2502	スポーツ理論及び実習B (×1) 1209J 北濱、岡本 コモンホール 総合グラウンド	実用韓国語A (※2) 1255J 林 1305	
					情報処理技術者C (※2) 1293J 宮川 第4実習室	
					秘書実務A (※2) 1266J 赤井 1306	
水	コミュニケーション基礎 (○2) 1214J 矢原他 2502	健康とスポーツ (●2) 1101J 北濱、岡本 1305	キャリアプランニング (○2) 1207J 齋藤、矢原、宮川、 真下、神山、藤本 2502、第1, 2実習室、他	医療事務II (※4) 1003J 古賀 1305		
		企業と社会 (●2) 1203J 佐竹 2501		PCデータ活用A (※2) 1262J 八尋 第1実習室		
				実用英語B (※2) 1252J 神山 1304		
木	言葉と文化 (●2) 1202J 真下 1307	韓国語II (●1) 0717J 林 1305	観光とレジャー (●2) 1201J 西野、藤本 1305	現代文明論II (○2) 942DJ 宮川、伊津、真下、岡本 2502	簿記B (※2) 1269J 佐竹 1307	
	オフィスシステム実習A1 (×1) 1231J 矢原 第1実習室		情報とメディア (●2) 1204J 伊津 2501		TOEIC・B (※2) 1254J ウェア 第2実習室	
					日本語コミュニケーションII (※1) 0225J 矢原、西野、神山、チョウ 1306	
金	メディア基礎演習B (×2) 1220J 矢原 第1実習室	プロジェクト研究1 (○2) 1240A 矢原 1240B 伊津 1240E 赤井 1240C 八尋 1240D 宮川  各研究室	IT総合演習II (×2) 1218J 八尋、伊津 第1実習室	ITシステム論A (×2) 1222J 宮川 1307	英語基礎 (※2) 1247J 赤井 1306	
				秘書実務B (※2) 1267J 赤井 1306		
				ディベート基礎 (※2) 1243J 真下 1302		

集中	企業実習 (※2)	齋藤、神山、藤本
	韓国短期留学B (×2)	林
	中国短期留学 (×2)	チョウ
	海外短期留学 (×4)	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学 (×6)	東海大学派遣留学制度他
	海外長期留学 (×8)	東海大学派遣留学制度他
	海外研修(航海) (×4)	

■履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2012年度授業時間割 国際文化学科 (B2生) 第2セメスター

注1) ( ) 内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択 ※:随意、数字は単位数を表しています。

注2) 担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

曜日	1時限目 9:00~10:20	2時限目 10:30~11:50	3時限目 12:40~14:00	4時限目 14:10~15:30	5時限目 15:40~17:00	6時限目 17:10~18:30
月	英語II (●1) 9486J 神山 1305	情報リテラシーB (○1) 1212J 矢原、徳永 第1, 2実習室	中国語II (●1) 9954J チョウ 1307	英語コミュニケーションII (×2) 0032J ウェア 1303 0032K 玉置 1302  〔週2コマ【火2】開講〕 スポーツマネジメント実習B (×1) 世界歴史地理研究 (×2)	PC文書作成B (※2) 1261J 矢原 第1実習室  実用中国語A (※2) 1257J チョウ 1307	
火	韓国語コミュニケーションII (×2) 0832J 林 1303  〔週2コマ【金1】開講〕 国際文化論 (×2) 942EA 真下 1305	英語コミュニケーションII (×2) 0032J ウェア 1303 0032K 玉置 1302  〔週2コマ【月4】開講〕 スポーツマネジメント概論 (×2) 1284J 北濱、西野、岡本 1305	マネジメント基礎 (○2) 1213J 西野、佐竹 2502	スポーツ理論及び実習B (×1) 1209J 北濱、岡本 コモンホール 総合グラウンド  中国語コミュニケーションII (×2) 9959J チョウ 1303  〔週2コマ【木1】開講〕	実用韓国語A (※2) 1255J 林 1305  情報処理技術者C (※2) 1293J 宮川 第4実習室  秘書実務A (※2) 1266J 赤井 1306	
水	コミュニケーション基礎 (○2) 1214J 矢原、他 2502	健康とスポーツ (●2) 1101J 北濱、岡本 1305  企業と社会 (●2) 1203J 佐竹 2501	キャリアプランニング (○2) 1207J 齋藤、矢原、宮川、 真下、神山、藤本 2502、第1, 2実習室、他	医療事務II (※4) 1003J 古賀 1305  PCデータ活用A (※2) 1262J 八尋 第1実習室 実用英語B (※2) 1252J 神山 1304 国際・時事研究 (※2) 1245J 真下 1307		
木	言葉と文化 (●2) 1202J 真下 1307  スポーツマネジメント論A (×2) 1285J 北濱、岡本 2501  中国語コミュニケーションII (×2) 9959J チョウ 1303  〔週2コマ【火4】開講〕	韓国語II (●1) 0717J 林 1305  レジャー&ツーリズム概論I (×2) 1277J 宮内、西野 2501	観光とレジャー (●2) 1201J 西野、藤本 1305  情報とメディア (●2) 1204J 伊津 2501	現代文明論II (○2) 942DJ 宮川、伊津、真下、岡本 2502	簿記B (※2) 1269J 佐竹 1307  TOEIC・B (※2) 1254J ウェア 第2実習室  日本語コミュニケーションII (※1) 0225J 矢原、西野、神山、チョウ 1306	
金	韓国語コミュニケーションII (×2) 0832J 林 1303  〔週2コマ【火1】開講〕		プロジェクト研究I (○2) 1240F 真下 1240G 神山 1240H 林 1240I 藤本 1240J チョウ 1240K ウェア 1240L 北濱 1240M 岡本  各研究室	秘書実務B (※2) 1267J 赤井 1306  ダイエット基礎 (※2) 1243J 真下 1302	英語基礎 (※2) 1247J 赤井 1306	

集中	企業実習 (※2)	齋藤、神山、藤本
	韓国短期留学B (×2)	林
	中国短期留学 (×2)	チョウ
	海外短期留学 (×4)	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学 (×6)	東海大学派遣留学制度他
	海外長期留学 (×8)	東海大学派遣留学制度他
	海外研修(航海) (×4)	

■履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

## 2012年度授業時間割 情報処理学科（B1生）第3セメスター

注1) ( ) 内の、記号は○：必修 ●：選択必修 ×：選択、数字は単位数を表しています。

注2) 担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 曜日	1時限目 9:00～10:20	2時限目 10:30～11:50	3時限目 12:40～14:00	4時限目 14:10～15:30	5時限目 15:40～17:00	6時限目 17:10～18:30
月			WebデザインII (×1) 0305A 八尋 第1実習室	文学と歴史 (●2) 9963A 神山 1305		
火	環境と地球 (●2) 0601A 伊津 2501	デジタル編集 (×2) 1118A 伊津、中村 第2実習室	進路対策III (×2) 0319A 宮内、齊藤、藤本 2502、第1、2実習室 真下 1306 宮川 1307			
水		健康とスポーツ (●2) 1101A 北濱、岡本 2502	マーケティング (×2) 0720A 佐竹 2501	医事コンピュータ (×2) 1001A 古賀 第2実習室		
木	プログラミングI (×1) 9925A 宮川 第4実習室	卒研ゼミナールI (○1) 1104C 矢原 1104A 伊津  1104D 八尋 1104B 宮川  各研究室	英語III (●1) 9489A 神山 1303 9489B 赤井 1306			
金		ホームネットワーク (×2) 1109A 宮川 第1実習室	プロジェクト実践I (○2) 1107C 矢原 1107A 伊津 1107D 八尋 1107B 宮川  各研究室			
集中	海外短期留学 (×4) 東海大学派遣留学制度他					
	海外中期留学 (×6) 東海大学派遣留学制度他					

■履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2012年度授業時間割 国際文化学科 (B1生) 第3 Semester

注1) ( ) 内の、記号は○:必修 ●:選択必修 ×:選択、数字は単位数を表しています。

注2) 担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 曜日	1時限目 9:00~10:20	2時限目 10:30~11:50	3時限目 12:40~14:00	4時限目 14:10~15:30	5時限目 15:40~17:00	6時限目 17:10~18:30
月	スポーツ・レジャー科学論 (×2) 1128A 岡本、田中、植村 1307	レジャー・レクリエーション実習I (×1) 1129A 北濱 1307	リーディング・スキルII (×1) 0910A 赤井 1306	文学と歴史 (●2) 9963A 神山 1305		
火	環境と地球 (●2) 0601A 伊津 2501	韓国語コミュニケーションIII (×1) 0911A 林 1306	進路対策III (×2) 0319A 宮内、齊藤、藤本 2502、第1、2実習室 真下 1306 宮川 1307			
水	中国語コミュニケーションIII (×1) 9960A チョウ 1304	健康とスポーツ (●2) 1101A 北濱、岡本 2502		英語コミュニケーションIII (×1) 1133A ウェア 1303		
木	検定韓国語I (×1) 1139A 林 1307	検定中国語I (×1) 1141A チョウ 1303	英語III (●1) 9489A 神山 1303 9489B 赤井 1306	海外観光地理 (×2) 0314A 藤本 1305		
金		検定英語III (×1) 1137A 神山 1302	卒研ゼミナールI (○1) 1104L 真下・亀田 1104M 宮内 1104G 神山・ウェア 1104K 林 1104F 藤本 1104J チョウ 1104H 北濱・岡本  各研究室			

集中	救急処置法 (×2)	0609A 宮崎
	海外短期留学 (×4)	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学 (×6)	東海大学派遣留学制度他

■履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2012年度授業時間割 情報処理学科（B1生）第4セメスター

注1) ( )内の、記号は○：必修 ●：選択必修 ×：選択、数字は単位数を表しています。

注2) 担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目	6時限目
曜日	9:00～10:20	10:30～11:50	12:40～14:00	14:10～15:30	15:40～17:00	17:10～18:30
月			文学と歴史 (●2) 9963J 神山 1305			
火		環境と地球 (●2) 0601J 伊津 2501	進路対策IV (×2) 0320J 真下 1306 宮川 1307 齊藤、藤本 第1, 2実習室	プログラミングII (×1) 9926J 宮川 第4実習室		
水		健康とスポーツ (●2) 1101J 北濱、岡本 1305	経営基礎論 (×2) 0810J 佐竹 第4実習室			
木		卒研ゼミナールII (○1) 1105C 矢原 1105A 伊津 1105E 赤井 1105D 八尋 1105B 宮川  各研究室	英語IV (●1) 9492J 神山 1304 9492K 赤井 1306	ビジネスデータ活用 (×1) 1119J 矢原 第2実習室		
金					プロジェクト実践II (○2) 1108L 矢原 1108J 伊津 1108M 八尋 1108K 宮川  各研究室	

集中	海外短期留学 (×4)	東海大学派遣留学制度他
	海外中期留学 (×6)	東海大学派遣留学制度他
	海外研修(航海) (×4)	

■履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

2012年度授業時間割 国際文化学科（B1生）第4セメスター

注1) ( )内の、記号は○：必修 ●：選択必修 ×：選択、数字は単位数を表しています。

注2) 担当教員名の上または左に表示された番号は「履修登録番号」です。

時限 曜日	1時限目 9:00～10:20	2時限目 10:30～11:50	3時限目 12:40～14:00	4時限目 14:10～15:30	5時限目 15:40～17:00	6時限目 17:10～18:30
月		レジャー・レクリエーション実習II (×1) 1130J 北濱 1307	文学と歴史 (●2) 9963J 神山 1305	検定中国語II (×1) 1142J チョウ 1305	英語文化圏地域研究 (●2) 1122J 神山 1305	
火	中国語コミュニケーションIV (×1) 9957J チョウ 1304	環境と地球 (●2) 0601J 伊津 2501	進路対策IV (×2) 0320J 真下 1306 宮川 1307 齊藤、藤本 第1, 2実習室	異文化交流論 (●2) 9932J 赤井 1305	フランス語文化圏地域研究 (●2) 1123J 真下 1307	
水	検定英語IV (×1) 1138J 神山 1302	健康とスポーツ (●2) 1101J 北濱、岡本 1305	観光メディア論 (×2) 0422J 宮内 1303	韓国語コミュニケーションIV (×1) 0912J 林 1306		
木	検定韓国語II (×1) 1140J 林 1305	英語コミュニケーションIV (×1) 1134J ウェア 1303	英語IV (●1) 9492J 神山 1304 9492K 赤井 1306	エコツーリズム論 (×2) 0306J 宮内 1305		
金	生涯スポーツ論 (×2) 1132J 北濱、岡本 1305	卒研ゼミナールII (○1) 1105L 真下・亀田 1105M 宮内 1105G 神山・ウェア 1105K 林 1105F 藤本 1105J チョウ 1105H 北濱・岡本 各研究室				
集中	海外短期留学 (×4) 東海大学派遣留学制度他 海外中期留学 (×6) 東海大学派遣留学制度他 海外研修(航海) (×4)					

■履修登録番号および教室のない科目については、後日掲示等で指示します。

■実施教室については、授業開始後、履修者数等により変更となる場合があります。

## (7) 教科書

< 1年春学期 >

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
観光とレジャー	西野・藤本	観光概論	JTB能力開発	2,600
英語I	神山	Fundamental English for College Students -Parts of Speech 大学英語セミナー<品詞のはたらき編>	南雲堂	1,900
韓国語I	林	完全マスターハングル文法	DHC	2,000
中国語I	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,500
日本歴史地理研究	亀田	プロムナード日本史	浜島書店	820
英語コミュニケーションI	ウェア	Top Notch Fundamentals (2nd Edition)	Pearson Longman	2,910
	玉置	Talk a Lot Book One	EFL PRESS	2,400
韓国語コミュニケーションI	林	完全マスターハングル文法	DHC	2,000
中国語コミュニケーションI	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,500
地理歴史基礎	亀田	13年度版 「試験に出る 一般常識問題集」	永岡書店	1,200
実用英語A	神山	7日間完成 英検 準2級 予想問題ドリル 改訂新版	旺文社	1,140
TOEIC・A	ウェア	Very Easy TOEIC (2nd Edition)	Compass Media	2,400
旅行業務取扱管理者A	藤本	2012旅行業務取扱管理者試験「国内短期完成」	エフィカス	2,100
旅行業務取扱管理者B	宮内	2012旅行業務取扱管理者試験 国内テーマ別問題集	エフィカス	2,200
情報処理技術者A	宮川	差がつく最詳解説 ITパスポート 予想問題集	アイテック	2,000
		平成24年度 ITパスポート合格教本 CBT対応 (情報処理技術者試験)	技術評論社	1,580
情報処理技術者B	宮川	差がつく最詳解説 ITパスポート 予想問題集	アイテック	2,000
		平成24年度 ITパスポート合格教本 CBT対応 (情報処理技術者試験)	技術評論社	1,580
秘書実務A	赤井	秘書検定 3級 実問題集 2012年度版	早稲田教育出版	1,100
秘書実務B	赤井	秘書検定 2級 実問題集 2012年度版	早稲田教育出版	1,200
簿記A	佐竹	合格テキスト日商簿記 3級	TAC出版	2,000
医療事務I	古賀	日本医療事務協会オリジナルテキスト		13,500

< 2年春学期 >

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
英語III	神山、赤井	Fundamental English for College Students -Rules of Syntax 大学英語セミナー<文のしくみ編>	南雲堂	1,900
プログラミングI	宮川	新・明解C言語によるアルゴリズムとデータ構造	ソフトバンククリエイティブ	2,600
医事コンピュータ	古賀	日本医療事務協会オリジナルテキスト		9,000
海外観光地理	藤本	すぐに役立つ海外地理ベーシック400	JTB能力開発	2,100
英語コミュニケーションIII	ウェア	Top Notch 1 (2nd Edition)	Pearson Longman	2,910
検定英語III	神山	7日間完成 英検 2級 予想問題ドリル 改訂新版	旺文社	1,200
韓国語コミュニケーションIII	林	完全マスターハングル文法	DHC	2,000
検定韓国語I	林	TOPIK 韓国語能力試験 トピック 中級	(株) Sidegosi企画	後日提示します
		TOPIK 韓国語能力試験 トピック 初級	(株) Sidegosi企画	後日提示します
中国語コミュニケーションIII	チョウ	中国成語故事	天津社会科学出版社	1,410



< 1 年秋学期 >

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
キャリアプランニング	川・真下・神山・ 加藤	短大生の就活編	(株) ディスコ	840
英語II	神山	Fundamental English for College Students -Parts of Speech 大学英語セミナー<品詞の はたらき編>	南雲堂	1,900
韓国語II	林	完全マスター ハングル文法	DHC	2,000
中国語II	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,500
ITシステム論A	宮川	平成24年度 イメージ&クレーパー方式でよくわかる 榎木先生の基本情報技術者教室	技術評論社	1,780
先端ビジネス論A	宮川	平成24年度 ITパスポート合格教本 CBT対応 (情報処理技術者試験)	技術評論社	1,580
世界歴史地理研究	亀田	明解世界史図説エスカリエ 四訂版 (別冊 白地図作業帳付き)	帝国書院	800
英語コミュニケーションII	ウェア	Top Notch Fundamentals (2nd Edition)	Pearson Longman	2,910
	玉置	Talk a Lot Book One	EFL PRESS	2,400
韓国語コミュニケーションII	林	完全マスターハングル文法	DHC	2,000
中国語コミュニケーションII	チョウ	らくだ最新中国語	とうか書房	1,500
国際・時事研究	真下	朝日キーワード 2013	朝日新聞出版	1,100
英語基礎	赤井	College Grammar Pathfinder (基礎文法から始める大学英語)	金星堂	1,900
実用英語B	神山	英検2級 Daily 20日間集中ゼミ CD付き 改訂新版	旺文社	1,450
TOEIC・B	ウェア	Taking the TOEIC 1	Compass Publishing	2,600
実用韓国語A	林	(教科書は使用します。別途、科目担当教員の指示により購入してください)		
実用中国語A	チョウ	中国成語故事	天津社会科学出版社	1,410
情報処理技術者C	宮川	差がつく最詳解説 ITパスポート 予想問題集	アイテック	2,000
秘書実務A	赤井	秘書検定 3級 実問題集 2012年度版	早稲田教育出版	1,100
秘書実務B	赤井	秘書検定 2級 実問題集 2012年度版	早稲田教育出版	1,200
簿記B	佐竹	合格テキスト日商簿記 3級	TAC出版	2,000
医療事務II	古賀	日本医療事務協会オリジナルテキスト		13,500

< 2 年秋学期 >

科目名	担当教員	書名	出版社	売価
英語 IV	神山、赤井	Fundamental English for College Students -Rules of Syntax 大学英語セミナー<文の しくみ編>	南雲堂	1,900
卒研ゼミナールII	チョウ	中国成語故事	天津社会科学出版社	1,410
プログラミングII	宮川	新・明解C言語によるアルゴリズムとデータ構造	ソフトバンククリエイティブ	2,600
英語コミュニケーションIV	ウェア	Top Notch 1 (2nd Edition)	Pearson Longman	2,910
検定英語IV	神山	英検2級 Daily 20日間集中ゼミ CD付き 改訂新版	旺文社	1,450
韓国語コミュニケーションIV	林	完全マスターハングル文法	DHC	2,000
中国語コミュニケーションIV	チョウ	中国成語故事	天津社会科学出版社	1,410

## 2. 教育の質の保証と改善に向けて

### (1) ゼミナールと個別指導

短期大学での学習環境に早期に対応できない学生の増加に伴い、今年度より「フレッシュマンゼミナール」を開講した。本学では、入学直後に学生 10 名程度につき 1 指導教員を配置している。「フレッシュマンゼミナール」では、その指導教員が全員科目担当者として入っており、少人数による指導体制を敷いている。科目の最初には、ゼミごとの履修指導や個別相談を実施すると共に、ニュースポーツを中心としたレクリエーションを行い、環境対応の早期問題解消と学生相互のコミュニケーションの構築をはかっている。次に「学ぶことの楽しさ・スキルを学ぶ」というテーマのもと、本学施設（図書館、PC 実習等）をどの様に学修に生かすのかをツアー形式で行い、続いて授業ノートの取り方、レポートの書き方を指導した。また、それまでの集大成としてテーマに沿ったレポートを提出させ、各指導教員が添削

し、個別にレポート指導を行った。その中で、特に優秀なレポートに対しては表彰を行い、学生のモチベーション向上に努めた。また、授業4回に1回程度はゼミごとの活動を設け、学生個々の状況把握や、個別相談に対応する時間とした。これらの活動を通して、初年次教育の目的の多くを達せられたと思っている。反省点としては、全体で活動する時間が多くなり、指導教員との信頼関係を構築する時間があまり取れなかったことにより、真の意味での学生相談になりきらなかったのではないかとこの点である。

また、本学では、学生一人ひとりの様々な情報を集約し、全ての教職員が共有するためのWebシステム「学生カルテ (Student Relationship Management System/SRMS)」を運用している。平成11年度から運用されている本システムは、本学専任教員によって開発され、以降、継続的な改善・改良が施され今日に至っている。この学生カルテによって、学生の個別情報の迅速かつ的確な把握と、教職員同士の情報の共有化が可能になったことで、総合ゼミナールでの個別指導の現場に、書き込まれた様々な情報が直接反映され、「学生一人ひとりに対して向き合う」ことを目指す、本学のきめ細かい個別指導の基盤を構成している。しかし、近年、心身の問題も含め多種多様な問題を抱えた学生も多くなってきており、学生カルテへの書き込みに関しては、守秘義務の問題等から学内の統一見解と書き込み情報の活用方法について再検討する必要がある。

## (2) FD 活動

### 1) 目的

本学は、多様性を増す学生一人ひとりに対応できる教育の実現による、初期高等教育そのものの質的変革を目指している。また、高等教育機関としての短期大学の存在意義が厳しく問われている現状において、本学が今後も生き残っていくためには、教育機関としての原点である教育能力の向上を第一に考えねばならない。これらの目標を実現するために、以下の3点を中心に研究活動を進める。

- リアルタイム授業評価の実施推進
- 相互授業参観の実施
- FD 研究会

### 2) リアルタイム授業評価の座学授業での実施率向上

本学におけるリアルタイム授業評価システムは、本学コンピュータ実習室からの利用のみだけでなく、学生私有の携帯電話・スマートフォン（以下、ケータイと称する）からも利用することができる。これにより、普通教室で行われる座学授業でも本システムを利用した授業評価が可能である。

しかしながら学生私有のケータイを利用するにあたり通信料の問題等が発生し、その利用に躊躇する教員も散見された。2012年度から学内全域に無線LAN環境を構築し、これを学生に開放することによりこれらの問題を解消できた。

### 3) FD研究会と相互授業参観の実施

2012年度より、「プロジェクト研究」をカリキュラムの中核にすえ、「語学」「ICT」「マネジメント」「コミュニケーション」の4つのチカラを土台とする新たな教育改革を推し進めていく中で、教員個々の教育力向上は必要不可欠である。そこで、FD研究会を通じて2012年度より開講された新たな科目の検証をするなど教育能力の改善に向けた方策を実施した。

以下に、2012年度実施したFD研究会の概要を示す。

日 時	実施内容	対象者
5月23日 15:40～	学生への接し方 事例発表・グループディスカッション・意見交換	教職員
6月20日 15:40～	授業改善に向けて1 授業参観・授業紹介発表・意見交換	教員
7月18日 15:40～	授業改善に向けて2 授業参観・授業紹介発表・意見交換	教員
8月22日 10:00～	ICT活用研修会 授業や業務におけるICTの有効活用研修	教職員

3月 5日 10:00～	魅力ある授業が学生を変える ～その必要性と可能性について～ 事例発表・グループディスカッション・意見交換	教職員
--------------	--	-----

### (3) eラーニング

近年の少子化や短期大学をめぐる社会的要請の変化などにより、入学する学生の特徴は、年齢・国籍・学習経歴・基礎学力から、入学目的・希望進路に至るまで、多様化の一途を辿っている。このような状況において、教育の質と学生の満足度を高めるためには、個々の状況を的確に把握し、かつ、その状況に見合った対応を行う「個別教育」の実現が必要である。

本学では、個別教育の実現に向けて、下記に述べるようなeラーニングによる授業形態を導入し、{いつでも} {どこでも} {誰でも} 学ぶことのできる体制づくりを推進している。

#### 1) 取組み概要

本学では、(1)本学教員による独自のウェブ教材、(2)学生カルテ、(3)メンタリング、の3つをeラーニング実現の中核要素とし、これらの有機的な結合によって、多様な個々の学生に対する教育効果の増進を図っている。具体的には、授業担当教員とのメンタリングによって得られた、学生の学習状況・希望進路・生活状況などの情報を学生カルテに蓄積し、教員間で共有する。この情報をもとに、教員は個々の学生の将来目標や能力に適する教材を開発・提示することや、その時点での学生の状況に応じたより適切なメンタリングを推進できる。

#### 2) eラーニング科目と単位認定

本年度(2012年度)は、正規科目のうち5科目(計8単位)を「eラーニング履修可能科目」として開講した(昨年度は11科目18単位)。なお、2012年度カリキュラム(2012-2013)では、6科目12単位がeラーニング履修可能科目として設定されている(2011年度カリキュラム(2011-2012)は9科目14単位)。これらの科目については、eラーニングのみで単位取得が可能であるだけでなく、通常の対面授業も実施しており、学生は科目担当教員と相談の上、受講の形態を選択することができる。なお、具体的なeラーニング科目については、先に示したカリキュラム表のとおりである。

#### 3) 支援体制

昨年度(2011年度)まで、本学におけるeラーニングの取組み全体は、旧メディア情報センターが統括し、同センターの下部組織であるラーニングリソースラボが教材開発の技術指導のほか、ビデオ撮影、編集作業などを支援していた。今年度、メディア情報センターの解散に伴い、ラーニングリソースラボの役割は図書館に引き継がれている。

#### 4) 現状の問題点と改善に向けての取組み

本学のeラーニングに対する取組みは、2005年度に本格稼働の後、本学の教育の特長の一つでもある個別教育の具現化、及び、多様化した学生に対する教育の質向上に一定の成果をあげてきた。しかし、極めて早い社会の動きの中において、科目内容の見直しスピードに教材開発が追いつかず、eラーニング履修可能科目は減少の一途にある。また、これまで本学において開発・運用してきた教材のうち多くを占めている「長時間の授業ビデオと演習問題」というスタイルは、開発効率こそ良好なもの、近年の学生の学習スタイルと合致せず、その利用率は低調である。

一方、「eラーニング履修科目」としての設定は減少しているものの、Web上に授業教材(スライドや実習ビデオ等)を置くことや、小テスト、課題提出、レスポンスアナライザの利用等、eラーニング教材やICT環境を授業の質向上に活用する事例は本学内でも数多く認められている。これらの授業においては、eラーニング教材を素材として、授業内外での積極的な学習行動を促すよう科目担当教員の工夫がなされている。しかし、懸念点として、これらの授業の中において、どの程度eラーニング教材を活用するかどうかは各科目担当教員に任されており、その全体把握は現在のところ不十分であるほか、教員間で運用ノウハウが共有されているとは言い難い。加えて、メディア情報センターの解散も影響して、eラーニングに関する全学的取組みが低調になっていることは否めない。

これらを踏まえ、自学自習、対面授業の質向上、授業アーカイブなど、求められるそれぞれのシーンに基づいた質の高い教材の設計・開発を推進するべく、FD活動と連携し、活動全体を見直すことが必要

と考えている。その他、技術的には昨今急速に普及が進むスマートフォン等のスマートデバイス活用も早急に検討するべきと考える。

## **(4) 実践教育**

### **1) 取組み背景と目的**

本学では学内における座学・演習・実習だけでなく、本学敷地以外をキャンパスとした教育活動を行っている。これは現場における実学を中心とした実践教育を行い、様々な場面での社会人としての礎を養うことを目的としている。また短期大学は就学年数が2年と短いことに加え、昨今の就職活動の早まりから、将来の進路選択に十分な知識がないままその時期を迎えてしまう問題もあった。これらの判断材料となる知識を得るためにも実践教育が必要と考えている。

### **2) 主な活動**

主に次の科目において実践教育を中心とした授業展開を行った。

#### **専門ゼミナール I, II, III, IV**

専門ゼミナールは、学科専門科目として開講されている科目に対して、その内容を横断的に取扱い、さらに専門科目群の実践の場として実施している科目である。この科目は各教員がテーマを設定し、それに対して希望する学生が主体的に参加する形態をとっており、原則2セメスターから4セメスターまでを同じテーマで取り組む。

ある専門ゼミナールでは、東海大学附属自由ヶ丘幼稚園の保護者向けの Web コンテンツ作成に取り組んだ。学生はデジタルカメラやビデオを用いて園児たちの日常・行事などを撮影し、作品を作成する。その作品を Web ページ上で保護者向けに公開する。また、幼稚園の夏祭りや本学建学祭などのイベント時に作品の公開上映などを行う。具体的には、撮影に関しては、取材スケジュールの調整、スタッフ調整、企画などの事前作業（プリプロダクション）、そして実際の撮影（プロダクション）さらに写真や動画の編集、公開（ポストプロダクション）などを行う。この過程の中で、専門科目として開講されている授業だけでは知識や技能を学ぶことにできない範囲を、実践として取り扱う。

#### **レジャー・レクリエーション実習 I**

レジャー・レクリエーション実習 I は、レジャー・レクリエーションの概念や機能・意味などについて検討する。次いで、野外教育の必要性、野外活動を楽しむためのマナー、そして自然の魅力、環境保護の重要性について学習する。また、本科目では環境教育プログラムの一つである、プロジェクト・ワイルドについても理解を深める。授業のまとめとして行うキャンプ実習では、他者と協力して何かを成し遂げる場、そして新しい自分自信を発見する機会になることをする。

実習はセメスターを通して2回実施し、内容に関しては次である。1) 地域探索実習として本学周辺の寺社・名所を徒歩で巡り、最終目的地とした八所宮で飯盒炊爨を含む野外調理を行う。2) 1泊2日のキャンプ実習を福岡県鞍手郡鞍手町の大谷自然公園にて行う。実習内容は大きく区分けて以下の3項目である。竹を使用したクラフト、プロジェクト・ワイルドの発表、野外調理の3つである。

### **3) 今後に向けて**

2012年度よりプロジェクト実践を1つの基軸としたカリキュラムの抜本的な改定を行い、各専門科目が完全にプロジェクトと連携した教育体系を目指している。また、学科の専門性に応じたプロジェクトテーマをいくつか設定し、これらを必修科目の設定として全学生を対象とした体制を計画している。

## **(5) 一貫教育**

附属第五高校に対しては、3年生を対象とした高大連携授業を実施すると共に、附属推薦入試候補者のうち成績上位者を対象にした体験留学制度を入学前教育として行っている。東海大学附属第五高校の「現代文明論」科目への講師派遣も行っている。さらに、折尾高校、筑豊高校、小倉商業高校、宇美商業高校（以上4校とも福岡県立）と高大連携授業の提携を行い、情報国家資格取得支援を中心として講師を派遣している。

### 1) 東海大学付属第五高校との高大連携授業

東海大学付属第五高校の生徒に対して、高等教育機関で学ぶ内容を早期に体験させ、その基礎知識やスキルの修得を目指していく中で、卒業後の進路選択に向けた付加価値の創出を目的として実施した。2012年度は「韓国語と文化」「中国語と文化」「情報とメディア」「スポーツレジャー&ツーリズム」「教養マナー」の5コースを設定した。4月から7月までの間で全4回の授業を2クール行い、生徒は関心ある2コースを体験できるようにした。全3年生（理数科クラスを除く）を対象に実施し、アンケート結果からも生徒の進路選択の幅が広がるなど一定の成果を得ることができた。しかし、授業回数の関係から興味関心を引くところまで持込めない部分やコース選択に至る情報不足など問題点も見受けられた。これらの改善を図りながら、次年度の実施体制を検討する必要がある。

### 2) 体験留学

今年度は該当者がいなかった。この体験留学制度は毎年実施しており、「東海大学付属高等学校特別奨励入学制度」に該当する成績優秀な生徒を対象に、早い段階で大学の専門教育を受講させ、大学・高校への接続をスムーズにし、大学への入学前の準備を充実させることを目的にしている。本学園の特色の一つである一貫教育の推進を図る重要な制度であり、今後も内容の充実と一貫教育の連携に努めていきたい。

### 3) 東海大学付属第五高校 現代文明論

東海大学付属第五高校の1年生に対して、より専門性の高い講義を行うことでその後の勉学意欲向上と早期に高等教育機関への関心を高めることを目的として実施している。

2012年度は3名の講師を派遣し、「大学的視点からの現代文明論」、「国際文化の視点における現代文明論」、「情報処理の視点における現代文明論」の内容で講義を行った。付属生に高等教育機関への関心と意識を持たせる上で重要な役割を担っており、今後も継続実行していく必要がある。

### 4) 福岡県立4高校との高大連携事業

連携校である折尾高校、筑豊高校、小倉商業高校、宇美商業高校に対して、情報系国家資格の取得支援（担当：宮川准教授）を実施している。対応する試験は「基本情報技術者試験」と「ITパスポート試験」である。授業運用体制としては、本学内で運用しているコンテンツマネジメントシステム(Moodle)を活用することによる、完全eラーニング体制のもと実施した。高校側での情報系国家資格の希望者が減少傾向にあり、情報国家資格を希望する生徒がいない高校もでるなど、高校での指導体制も変化してきている。これに伴い、本学からのコンテンツ提供状況も授業の主教材として活用し、主たる支援を希望する高校と、補助教材としての活用に残る高校も出てきている。

本学の教育の特徴を近隣の高校に提供することは、双方にとって意義のある取り組みであるので、支援体制の新たな構築を行うと共に、連携の幅を広げていきたい。